

皆様方には、平素より私ども八幡信用金庫をご利用、お引き立ていただきまして、誠に有り難く厚くお礼申し上げます。当金庫をより一層ご理解いただくため平成22年度の決算内容等を取りまとめたディスクロージャー誌2011「はちしんナウ」を発刊いたしました。

## 平成22年度実績について

平成22年度のわが国経済は、高い経済成長を続ける中国や新興国の海外需要やエコポイント制度・エコカー減税などの経済政策効果などから生産活動が活発となり、年明け以降も「足踏み状態」から着実に前進しつつありました。

ところが、3月11日に発生した東日本大震災を機にわが国経済の状況は一変、広範囲にわたる被災地の生活基盤崩壊、原発事故処理の長期化、サプライチェーン分断による工業生産の落ち込みと個人消費の減退等、わが国はまさに「国難」ともいえる状況に陥りました。

また、当地域においては、かつて当地域の雇用と経済を支えてきた建設業が受注工事の減少で厳しい経営を余儀なくされる一方、製造業はリーマン・ショック後徐々に回復基調にありました。しかし飲食業・小売業をはじめとする個人消費関連業種は回復が鈍く、また観光面においても当地（郡上市）を訪れた観光客数は2年連続で前年を下回り、総じて厳しい経済環境が続きました。加えて、大震災の影響は製造業における受注急減や観光客の予約大量キャンセル等ほぼ全業種にわたりリアルタイムで波及しています。

このような状況下、当金庫の業績につきましては、預積金残高は981億56百万円と前期比28億77百万円（3.02%）の大幅増加となったものの、貸出金残高は事業性資金需要の低迷が続き、339億95百万円と前期比5億86百万円（1.69%）の減少となりました。収益面におきましては、大震災の影響による金融市場の混乱から有価証券の減損処理および貸出金にかかる個別貸倒引当金を計上したものの、適切なリスク管理のもと効率的な資金運用を図ったこと等から、当期純利益は2億4百万円を計上することができました。

## 今後の事業展望について

当地域の今後の経済環境につきましては、入込客数が減少傾向にあった観光業で震災直後から予約キャンセルが相次いだほか、明るい兆しが見え始めていた一部製造業でも原材料の調達難から一時休業の事態となるなど大震災の影響によりさらに厳しい状況が続くものと予想しています。

こうした状況をふまえ、当金庫は2011年度経営計画における基本方針を「“創業85周年” 進一歩」としました。創業以来、顧客・地域に支えられ共に歩んだ85年の実績に満足することなく、さらなる高みを目指して新たな一歩を踏み出すこと、そして顧客・地域との「絆」を大切に、地域に役立つ信用金庫として地域経済を支えていくこととしております。これからも全役職員が力を結集し地域の持続的発展に貢献できるよう努力する所存でございますので、どうか今後ともよろしくご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

